

埼玉県山岳連盟 埼玉岳連報 43 号

発行者 森下健七郎

発行所 連盟事務所 天野賢一方

〒333-0823 川口市石神 179-40

編集人 岩井田正昭

発行数 1600 部

埼玉岳連



総合表彰式会場にて前列左から天野理事長、坂井選手、尾上選手、波田選手、是永選手、竹腰監督
後列左から小茂田応援団長、門間監督、安田選手、ミナモ君、杉選手、佐藤監督、森下会長（撮影・岩井田）

巻頭言

埼玉県山岳連盟 会長 森下健七郎

今年度の岳連諸活動も、後半に入ります。

各委員会の例年の諸事業を一つ一つ地道に企画・運営して積み上げて行く事が、岳連諸活動の基本と思っています。諸活動・関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

今年度は「岳連組織活動の更なる発展の為に」の先ずは「財政の再構築」を掲げ「会費値上げ改訂」を元に、各種の新たな試み・提案をしております。

その過程で「岳連カレンダー作成・販売」の決定を常任及び理事会で承認・作成の発注をしました事を先ずは報告致します。（別記事参照）

また、この間の岳連活動のトピックを挙げると・・・（１）海外登山委員会発案の「クライマーミーティング」（２）５月末、団塊世代の大山光一さんが単独でエベレスト登頂に成功！（３）８月１０日（金）～８月１２日（日）には当岳連の初企画「秩父夏休み・親子自然観察教室」（４）「９月２９日（土）～１０月２日（火）の第６７回岐阜国体」では＜天皇杯４位・皇后杯３位＞の大快挙を達成！（別記事参照）

今後とも、岳連活動の組織拡大・組織強化に関わる会員の皆様の忌憚のない前向きな各種の提案を、お願い申し上げます。



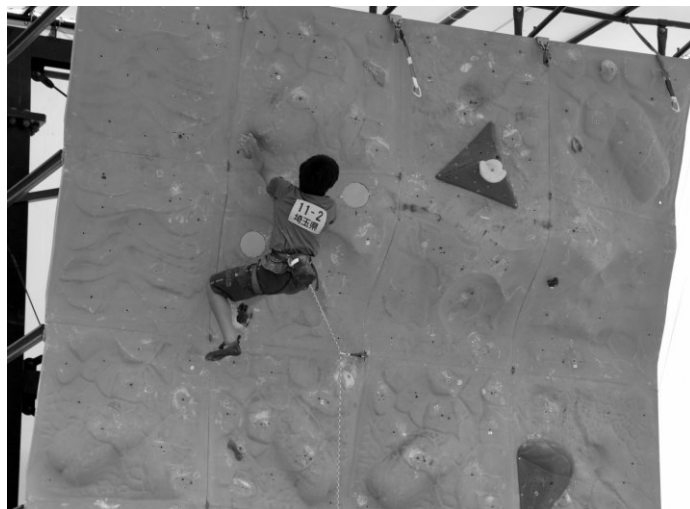
男女リード特設会場：台風の影響で予選なしの一発決勝となった少年男子オブザベーション



雨曇り空の下、リード決勝の会場は満席で盛り上がりました



少年男子リード決勝で完登する是永選手
個人でも堂々の優勝となる



少年男子リード決勝で一手及ばず個人 6 位となった大健闘の波田選手・リード優勝に大きく貢献



ボルダリング成年男子・予選に挑む（左）杉選手、
（右）安田選手トライするルートを読み込む



非常に難しいムーブで完登目指す尾上選手

コバトン



入賞おめでとう！



熱い戦いを、終って静かに表彰式を待つ
(左)坂井選手、(右)尾上選手

《記録速報》

天皇杯(男女総合成績): 4 位

皇后杯(女子総合成績): 3 位

成年男子 B-3 6 位、L-3 9 位

監督 佐藤 豊

選手 安田 和義

選手 杉 卓洋

少年男子 B-5 位、L-1 位

監督 竹腰 昌信

選手 是永 敬一郎

選手 波田 悠貴

少年女子 B-2 位、L-2 位

監督 門間 希美

選手 尾上 彩

選手 坂井 絢音

『ぎふ清流国体』 県岳連応援団

応援団長 小茂田利孝

会 長 森下健七郎

副会長 古峰 孝

理事長 天野 賢一

広 報 岩井田正昭



信長公

『ぎふ清流国体山岳競技観戦記』

埼玉県山岳連盟理事長 天野 賢一

今回の「ぎふ清流国体」は、台風 17 号が列島を直撃・縦断するという悪天候のなか開幕しました。

リード競技が屋外会場のため台風の影響は大きく、まず少年男子・女子ともにリード競技は予選無しの一発決勝となりました。また競技日程も入れ替えがあり、特に少年女子のボルダリングが予選・決勝とも連日 18:00~20:00 におこなわれ、選手のコンディション調整はかなり大変なものだったと思います。

しかしそんな悪条件の中、埼玉県選手たちのがんばりは素晴らしいものでした。まずしょっぱなの少年男子リードは惜しいミスがあったものの、是永選手、波田選手の二人がその実力を如何なく発揮し、山岳競技がリード・ボルダの二種目となってからは初の優勝を勝ち取りました。

これで選手・応援団とも一気に盛り上がり、続く少年女子ボルダリングでは尾上選手、坂井選手堂々の 2 位。特に決勝の第 2 ラウンドで 3 完登をものにしたときは客席の盛り上がりが最高潮に達し、会場を大いに魅了しました。

以後少年男子ボルダは紙一重の差で 5 位。少年女子リードは素晴らしい粘りで 2 位となり、最終的には総合で天皇杯 4 位、皇后杯 3 位という近年にない好成績ですべての競技を終了しました。

全般的に今大会では特にボルダリング競技がたいへん盛り上がり、予選からの逆転、決勝第 2 ラウンドでのどんでん返しなど、まさに手に汗握る展開で会場が熱く沸く場面が多く非常に楽しめました。

そんな中、我らが埼玉県選手団は、特に少年男子・女子が大きく実力を伸ばしており、全国的にみても強豪といえるレベルまできていえます。

また成年男子の杉選手、安田選手も、国体経験の少ない中で奮闘してくれました。

まだ結果を出せるところまでは行きませんが、クライミングに対する意欲と真摯な態度に今後への期待は大きいものがあります。これからも是非がんばってほしいと思います。

最後になりましたが、監督、応援団、また岳連、埼玉県等関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

今回の好成績をまた次の大会へ繋げていけるようみなで力を合わせていきましょう。

どうもありがとうございました。

コバト 岐阜の壁に挑む!





8848m 山頂に岳連旗を掲げる！

「エベレスト登山報告 2012」

山学同人比企 大山 光一

<はじめに>

サラリーマン時代の 2007 年 5 月 15 日、中国チベット側からチョモランマ（8,848m）に登頂したことがある。5 年後の今年、ネパール側から世界最高峰に登ることにした。

計画段階では、埼玉県山岳連盟海外登山委員会並び傘下の加盟組織に参加者を募集したが、残念ながら反応はなかった。仕方なく、前回同様、たったひとりの登山隊で、再度チャレンジすることになった。

途中、高度順化でアイランド・ピーク（6,160m）に登ることを伝えたら、海外登山委員会の今雪雅夫氏が同行することになった。

今年のエベレスト登山が、例年と違うのは、HIMEX 隊（ラッセル・ブライス隊長）が、5 月上旬、理由は不明だがエベレストを離れてしまったことだ。現地の複数のシェルパに聴いても、明確な回答はなかった。

今シーズンのエベレストは、強風と大渋滞から凍傷になった人も多く、遭難死者 10 名。サウスコルから頂上の往復に 24 時間以上かかった人が多数いたという。今シーズン、ネパール側からのエベレスト日本人登頂者は、大山光一だけだった。

<登山概要>

4 月 中旬 ルクラからエベレスト街道を辿り、途中、アイランド・ピーク（6,160m）で高度順化を図るため、ディンボチェに滞在する。

4 月 20 日 エベレスト登山のために雇った二名のシェルパと合流。一名は昨年秋のマナスル登山で風間進氏に同行したシェルパ。もう一人は初対面だった。

4 月 23 日 早朝、アイランド・ピークの登頂を目指して BC を出発。ガレ場の中を登って高度を稼ぐ。

取り付き直下で、今雪雅夫氏から、「体力の限界だ」ということで、登頂を断念する旨を伝えられた。B

C から、ここまで 4 時間余りの登高だった。残念だが高度の影響もあるのだろうと判断し、早々にシェルパと下山させた。もう一人のシェルパを連れて、固い氷雪に苦勞したが、午前 9 時 55 分、アイランド・ピーク（6,160m）登頂。下山後、BC に泊り、翌日、ディンボチェのロッジで二人の登山隊は解散した。翌日、ルクラに向かう今雪雅夫氏に見送られ、ふたりのシェルパとエベレスト街道を辿る。ロブチェ経由で、

4 月 26 日 エベレストの BC（5,100m）に到着。途中、ロブチェ・イースト（6,199m）の BC には、HIMEX 隊の巨大なテント村があった。

5 月上旬 高度順化を兼ねて、3 泊 4 日の日程でウェスタンクームの C2（6,400m）まで登った。C1（6,100m）に 1 泊、C2 に 2 泊したが、高度順化は、この 1 回だけ。ところが、

5 月 7 日 の下山日にアクシデントに見舞われた。何の前兆もなくシュラフから出ようとしたら、腰に違和感を覚えた。中腰の姿勢ができず、テントから出られなかった。C2 では処置もできず、痛みを我慢して BC に戻った。途中、アイスフォールの通過は緊張の連続だった。

BC では、連日シェルパのマッサージを受けながら神頼みということで、祈祷師のお祓いも受けた。

登山をあきらめるのは簡単だが、しばらく腰の状態を観察することにした。数日後、ストックを頼りに腰の様子を見るためにカラパタール（5,545m）に登った。その後、他の日本隊が登頂日程の打診に訪れたが体調のことは触れなかった。

5 月 19 日から天候が安定するとの情報を得たので、5 月 16 日にアタックを計画、実行することにしたが、この時点で、まだ山頂までのルート工作は完了していなかった。従って、今シーズンの初日に登頂を目指す、大勢の登山者が殺到することは容易に想像できた。また、フィックスロープの設置状況によっては、サウスコルから上部の大渋滞が予想できた。そこで、わたしは C2 に到着後、今回の登山で突然襲われた腰痛の養生とルートが完成されていないことを考慮して、翌日の行動を見送り C2 で次の天候回復まで待機することにした。

そのまま登山を強行したパーティは、強風と渋滞で、遭難、アクシデントに巻き込まれて、大分苦勞したようだ。C2 に滞在中も午後になると降雪に見舞われた。

5 月 19 日 サウスコルの C4（7,989m）から山頂にアタックしたという九州の山岳ガイド山下健夫さんが、5 月 20 日の夕刻、C2 のテントに顔を出し、「残念だが、登頂をあきらめた」と告げた。寒気と強風に見舞われ、ヒラリーステップ周辺の大渋滞で思うような行動ができなかったようだ。

5月20日の登頂を目指していた倉岡裕之隊もサウスコル（C4）を最高到達点として、登山を中止したということ、後日知った。

結局、5月16日から5月22日までの一週間余り、C2に滞在。

5月23日 マッサージの効果もなく腰痛の状態は変わらなかったが、のんびり登ろうと決めて、C3（7,300m）に向かった。

5月24日 にC4に到着後、遅い昼食と仮眠。そして夕食後、午後8時00分、エベレストの山頂に向かってC4（サウスコル）を出発した。

5月25日 そして午前5時30分（現地時間）エベレスト（8,848m）山頂に辿り着いた。もうこれ以上、登らなくてもいいという解放感に浸った。山頂に到着したが、腰痛の痛みに立ち上がることはできなかった。強風と寒気に耐えながら、座ったままの姿勢で預かった寄せ書きを掲げて、カメラに収めた。山頂には30分余りの滞在。

下山時、ヒラリーステップの通過は緊張した。足の踏ん張りが利かず体重移動が辛かった。サウスコル上部で数日前の登山者の遺体、三つに遭遇した。

昼食後、サウスコルのテントを撤収し、下山を開始したが、途中で遺体の収容隊に追いついたことで相当長い時間を待たされた。予定のC2まで下山できず、日没のためC3に泊まった。

5月26日 C3からC2経由、ベースキャンプには夕刻の迫る頃、五体満足で戻ることができた。その後、二日間で下山準備。5月29日、午前10時を告げる頃、BCを離れた。わたしのエベレスト登山は終わった。

名 称 : 「大山光一エベレスト登山隊 2012」
 構 成 : 大山 光一（63 歳）
 登山協力員 : ペマ・ツェリン(29 歳) , ニマ・テンジン(30 歳)
 他に、サダ、コック、キッチンボーイ(各 1 名)
 期 間 : 2012 年 4 月 13 日(金)
 ～5 月 31 日(木) (49 日間)

日 程 :

4/13 : 羽田～バンコク～カトマンズ
 4/14 : カトマンズ 滞在
 4/15 : カトマンズ～ルクラ～パクティン
 4/16 : パクティン～ナムチェ
 4/17 : ナムチェ～キャンプマ
 4/18 : キャンプマ～デボチェ
 4/19 : デボチェ～ティンボチェ
 4/20 : ティンボチェ 滞在（高度順化）
 4/21 : ティンボチェ～チュクン
 4/22 : チュクン～アイランド・ピーク BC
 4/23 : BC～アイランド・ピーク(6,160m) 登頂～BC
 4/24 : BC～ティンボチェ

4/25 : ティンボチェ～ロブチェ
 4/26 : ロブチェ～エベレスト BC
 4/27～5/3 : BC 滞在
 5/4～5/7 : BC～C2 上部～C2～BC（高度順化）
 5/8～5/12 : BC～カラパ タール(5,545m) 登頂～BC
 （高度順化）
 5/13～5/15 : BC
 5/16 : BC～C2
 5/17～5/22 : C2 滞在
 5/23 : C2～C3
 5/24 : C3～C4(午後 8 時 00 分) 出発
 5/25 : **エベレスト（8,848m）登頂**
 ～C4～C3
 5/26 : C3～C2～BC
 5/27～5/28 : BC 滞在
 5/29 : BC～カトマンズ
 5/30 : カトマンズ～バンコク
 5/31 : 成田



安全登山の祈願《プジャ》

平成 24 年度 日本山岳協会レスキュー講習会（無積雪期）参加報告

報告者： 県岳連・遭難対策委員 松本善行

【日 時】平成 24 年 8 月 31 日（金）～9 月 2 日（日）

【場 所】長野県山岳総合センター
 （施設利用についての所見）

- ・食堂・厨房はあるが、食事提供のサービスはなし。今回計 6 食分は業者に弁当を配達してもらう。
- ・浴場は現在使用禁止のため、マイクロバス 2 台にて片道 10 分ほどの温泉施設への通いとなった。（長野山協のご尽力で格安の入浴料金となった）
- ・飲み物等の自動販売機類はなし。等の理由により、多人数での宿泊には、通常の宿泊施設よりも主催者側の負担が多かったように見受けられた。（その分今回の受講料は 8,000 円と廉価であり受講生の負担は軽減されたと思う）

講師反省会においても、同様の感想や意見が多く、今後の見直しを検討とのことである。

【参加者】（一部参加者を含む）受講生 43 名、講師 17 名／計 60 名



斜面を利用し背負って搬出訓練

【全般の内容】

前年（平成 23 年）実施された同レスキュー講習会は富山県国立登山研修所で行われましたが、今年は日本山岳協会としては初という、長野県山岳総合センターにて開校された。私は一口に「山岳総合センター」と言われても、すぐにはピンとこなかったが、山も徒に続けていれば、なるほどあそこかと、大町山岳博物館のほぼ真下にそれはあった。

埼玉岳連からの参加者は、日山協遭対常任委員の、瀬藤遭対長・恵氏、及び今回新任のわたくし（まったくもっておこがましい限り）の 3 名、及び受講生に大宮アルパインから菌田・沼田両氏、無名山塾から鈴木氏の 3 名、合計 6 名であった。

レスキューと言っても状況に応じ様々であるから、今回も例外なく、以下のコースに班分けされている。

- ①縦走・ハイキング班（ファーストエイド、搬送、ロープワーク等）／主任講師に我ら埼玉、瀬藤氏
- ②－1セルフレスキュー A 班（岩場におけるロープワークメイン）／主任講師に大阪、石田氏
- ②－2セルフレスキュー B 班（岩場における搬出シミュレーションメイン）／主任講師に東京、渡邊氏
- ③ワークレスキュー班（いわゆる救助隊）／主任講師に群馬、日山協遭対副委員長 町田氏

私は瀬藤班に付かせて頂いたが、前年セルフレスキュー B を受講した時と比較して、縦走・ハイキング班はロープレスキューのみならず、ファーストエイド、搬送と多岐に亘り、私としても、うろ覚えが殆どであり、スタッフでありながらも半分受講生と何ら変わらない状態は、あまりにも情けない限りであった。

【8／31】（晴れ時々曇り）

恵さん、鈴木（百）、松本で瀬藤車に便乗させて頂き、開校 13 時に間に合うよう、現地へ赴く。

西内日山協遭対委員長の挨拶に始まり、三日間の概要説明に神奈川の中丸さんが終始尽力、補足説明に遭対副委員長、町田さん、概ねそのような構成で話しは進む。各講師紹介の後、埼玉色あふれる縦走・ハイキング班は先ず座学である（大宮アルパインの菌田さん、沼田さん、無名山塾 鈴木はセルフレスキュー B 班。）。着いて早々、バタバタ動くのも辛いものがあるので、瀬藤さんには大変申し訳ないが、なかなか有難くて賢いスタートだった。次に、屋外の草地にてツェルト設営講習。近年ストックの普及率からしても、それを利用しない手はない。ストック二組を使用すると、張綱 2 本で足りるし、かなりの耐風力を纏う。

出張入浴&夕食後、体験室（ボルダリングや疑似確保支点等充実）にてロープワーク。その後就寝前に軽く？ビールで乾杯。実はそれが出来るのも、中丸さんをはじめとしたスタッフが、常にお茶やビールを冷蔵してくれていたお蔭である。感謝。

【9／1】（晴れ時々曇り）

朝食後、座学。運動生理学で担当講師は東京、岩切さん。わかりやすい説明だ。それにしても、漢字が弱い私としての感心どころは、内容以前にホワイトボードに滞りなく、実にすらすらと漢字を書かれるところにあった（「タンパク質」を「蛋白質」とか（笑））。その後は屋外草地にてロープワーク。前夜の応用編だ。補助ロープによる垂直方向に対してのフィックスロープ登高というロケーションをメインとした内容。この場合、水平方向ではないので、当然ながらフリクションヒッチについて焦点が充てられた。昼食後、屋内にて恵さんによるファーストエイド講習。山道具もそうであるが、救急用具の進歩も著しいものがある。伸縮包帯やサムスプリントは今や当たり前だが、中でも冷却包帯というのは、今回受講生がたまたま足を痛めたこともあり、実践しながら役に立つこととなった。冷却スプレーと包帯の組合せよりも持続性があることから、快復にもあまり時間がかからないようだ。他にも粘着包帯というのがあり、これは本年 6 月、埼玉大宮での指導員研修会において、日本ロープレスキュー協会代表の堤氏が紹介していたのと同じものであった。巻くだけで、縛る作業がいらないという大変便利な包帯である。

本日最後は、屋外の気持ちの良い展望台（西方面、晴れていれば爺ヶ岳・鹿島槍が眼前。あいにく三日間中はガスがかかり拝めず）で負傷者の搬送各種。シュリング 2 本から始まり、雨具、ストック、ザッ

ク等の組合せによるもの。登攀具に乏しい分、頭を使わなければならないのが、逆に縦走・ハイキングレスキューでの興味深い部分でもあり、その登山人口からして実践での使用頻度も他の班よりは多いことだろう。そして入浴・夕食後は、人によってはメインイベント以外の何ものでもない宴会…いや、懇親会の始まりとなった。



座学「運動生理学」レクチャーする岩切講師

【9／2】（曇り時々晴れのち雨）

前夜、懇親会も早々に切り上げたのは立場からだろうか、それとも体調を気にしてなのか、自分でもよくわからないが、いずれにしろ二日酔いとは程遠く、割とすっきり目覚めることができた。本日最終日の内容は、事故発生シミュレーションである。開始前に、瀬藤さんからストックを使った松葉杖の作成方法のレクチャーを行った後、2班に分かれ、負傷者役に講師の渡部さん（栃木）と私が務めることとなった。この負傷者役というのは、埼玉では恵さんによるリアリティーあるメイクでお馴染みの講習ではあるが、私自身、役にハマるのは初めてのことであったので、負傷者に成りきることだけを考えた。痛くもないところを痛いとを感じる、そんなところか。今回は受講生の中に現役の救急隊員が各班にいらしたので、シミュレーションもスムーズな運びで、恵さんからの評価も上々だった。

これにて全ての内容が終了。昼食後、閉校となったが、内心、いささか不満に思う点があった。それはスタッフがゆえに不明な点をおおびらに聞けないことである（別に質問しても構わないのだろう）。だが反面、指導員研修とも言えるので、私としては都合よく、技術、並びに指導のいずれの勉強にもなるので、大変有難い限りであった。

最後に、瀬藤さん、恵さん、大変お疲れ様でした。そして有難うございました。

（写真提供・西内遭対委員長、瀬藤遭対常任）

埼玉 2006 年ナガパルバット登山隊

〔ナンガパルバット追悼の会〕



ナガパルバット追悼の会 参加者一同

さる 8 月 25 日 浦和「南国酒家」に於いて 6 年前にナガパルバット登山で遭難された小澤直宏氏の 7 回忌となる追悼の会を開催しました。司会を天野理事長（ナガパルバット登山隊員）が行い、小澤登志江様、田中文男名誉会長（ナガパルバット登山隊総隊長）、高崎実様（小澤氏母校・埼玉大学 WV 部・OB 会会長）他、埼玉 WV・OB、ナガパルバット登山隊の福田隊長以下の参加メンバー、同じくトレッキング隊の参加メンバー、海外登山委員会、遠峰山岳会等 32 名の参加があり故人を偲びしばかりの歓談となりました。

途中から登攀中の記録映像や、当時同行したパートナーによる遭難事故前後の日記を朗読披露され参加者一同、胸が熱くなりました。

七回忌の節目として田中名誉会長から奥様へお品の贈呈があり、又奥様から今回の参加者全員にプレゼントをお配りになりました。滞りなく『追悼の会』は閉じることになり、森下健七郎・県岳連会長の閉式挨拶を持ってすべて終了しました。（海外委/岩井田）

〔秩父夏休み親子自然観察教室を終えて〕



霧藻ヶ峰にて観察教室参加者の皆さん

埼玉県山岳連盟の新たな公益事業として「秩父夏休み親子自然観察教室」が、自然保護、ジュニア、他委員会の会員や高校生がスタッフとなり、8 月 10 日（金）から 12（日）2 泊 3 日の日程で、県広報誌（さい

たま県民だより 6 月号) で広く募集を行い、一般参加の親子 19 人を含む総勢 40 名で開催出来ました。無事故で終了できたことに安堵しています。ありがとうございました。

今回の取り組みでは、埼玉県自然環境課、秩父市の後援、三峰神社からの並々ならない力添えや、群馬岳連 斉藤自然保護委員委員長、壁稜山岳会(熊谷市岳連) 桜井氏の無償の協力で開催出来ました。もちろん、携わった誰一人として無償の協力で臨んで頂いたことに期する思いはあります。報告の冒頭に心から御礼申し上げます。

「秩父夏休み親子自然観察教室」は企画委員会の目標としています会員間の絆づくり、会員拡大や安定した組織運営を展望したなかで一歩として位置付けた事業です。

先発スタッフは、開校 2 日前の 8 月 8 日(水)から炎天下の続く猛暑の中で黙々と作業を行い、参加家族を出迎えました。

1 日目：開校式は、森下県岳連会長から参加した親子に有意義な教室を楽しんで頂けるように、歓迎のあいさつを行い、オリエンテーリング、昼食「流しそうめん」では、緊張していた子供たちも「お替りを連発」一気に打ち解け合える雰囲気となった。更に、夕食までの自由時間では、いずみ高校の山岳部員 3 名が、子供たちのお世話を担当。高校生を「お兄ちゃん」の様に慕いながら遊び合い、短時間の内に子供同士の心をほぐした。子供たちの表情の変化や高校生の手探りの接し方には、驚かされた。

夕食後、みなかみ町天神平・星の観察会ガイド斉藤 次江さんの「星の観賞会」では、降る様な星空と星空の中に居るような名案内を堪能した。

2 日目：霧藻ヶ峰(1523.1m)への山登りを体験。歩けるか心配するお母さん達を従えて元気いっぱい山行を楽しみ、三峰神社宮司さん同行の説明付き神社参詣と、神の湯の入浴を行った。

岳人の家では「カレー作り」を体験。(2 日目のテント泊は夕立により中止。岳人の家大広間泊)

3 日目：水鉄砲づくり、チェンソーによるベンチ作り、鍋敷き作り、水遊び。

11:00 からの終了式で、大石ジュニア委員長からひとり一人の子供たちに修了証を手交。大切そうに親御さんに手渡す仕草で帰路に就く参加者の笑顔を、見送るスタッフ一同からは、大きな拍手が贈られた。

平成 24 年 9 月 24 日：企画委員会 長谷川 茂

修了証を大石委員長から受け取る小学生



「夏休み親子自然観察教室」に参加して

桜蔭高校 1 年 伊藤 真木

8 月 10 日から 12 日までの 2 泊 3 日で「夏休み親子自然観察教室」に参加した。最初は父から誘われたのであった。参加する子供達のお世話係をしてほしいとのこと。私は小中学生の間、地域のスポーツクラブや YMCA など夏休み・冬休みのキャンプには何度も参加している。その中で、「リーダー」と呼ばれるお世話係の大学生のお兄さん・お姉さん達の臨機応変の活躍にはいつも感心しつつ感謝していた。あのお兄さん・お姉さん達のようなお世話が私にもできるのか、少し不安もあった。

場所は埼玉の山の中、三峰というところの今は使われなくなった小学校だというのは興味深い、私にはそのことよりも、参加する子供達同士がすぐに仲良くなれるかが気になった。これまでの経験から、キャンプの楽しさは集まった人々がどれほど親しくなれるかにかかっていると思ったからだ。到着して受付で名札をいただいた。名札には名前の上に「実行委員」と書かれていた。何か重い責任を感じたが、自分でできることをすればよいと思えば気は楽になった。

泊まったのは、1 泊目は校庭に張ったテント、2 泊目は小学校の中。古い木造の校舎はところどころ壊れていて、ジブリのアニメに出てきそうな雰囲気である。絵になる雰囲気なので、来年は是非スケッチブックを持って行こうと思う。そこでお料理の手伝いや後片付け、子供達に梨の皮をむいてあげたり、、、。もちろん私も色々楽しんだ。珍しい昆虫のスケッチをしたり、花火をしたり。

しかし、残念ながら(?)、今回の「自然教室」で一番印象に残ったことは登山ではない。修学旅行の一番の思い出が、お寺やお城の見学などではなく、夜の枕投げであったりするように、本質でないところに印象が残る。今回は、かまどで燃やす間伐材の炎であったり、廃校の汚れた天井を見ながら寝たことであったり。こうした携帯電話やゲーム機やテレビなどの無い環境での非日常的な体験の全てが貴重だと思ったし、子供達にとっても貴重な経験となったに違いない。

『ありがとう』

※編集注 この掲載文は今回の『自然観察教室』にボランティア参加された高校生を代表し、伊藤真木さんに感想を特に執筆いただきました。子供たちのお世話係りとして献身的に行動して頂いたとスタッフから大変うれしい声も聞かれました、参加頂いた他の高校生の皆さんも含めて、此れを機に次回も又ご協力をお願い致します。 ご苦労様でした。

(広報委/岩井田)

《吉田山岳会》事業記録（記録漏れあり）

吉田の山好きは小鹿野山岳会と行動をとともにしていた。城峯の祭り（5 月 2 日）神社前で今は故人の坂本貫一さんに吉田も山岳会を作って下さいと嘆願された当時体育関係（その後体育指導委員）に携わっていたので小鹿野山岳会の組織を参考に作る事にした。吉田町初めての団体であった。高田町長時代にテント 2 張りを購入してもらい、ザイル 2、補助ザイル 1、キスリング 1、ラジウス、シフ 2、ランタン（ロソク用）、会旗大 1、小旗 10 数本もつくり、事務局を兼ね、備品の管理、貸し出しをしていた。テント等は使ったままで返して来るので私の父が裏の川原で干していた。私個人の備品も貸し出して返ってこないものも多かった、S47 年に父が逝去したので、備品の管理がしづらくなったので会計の小菅さんに依頼した。その後退職を期に会計事務を引き継いでいる。

主な事業

県体山岳 熊倉山に大勢参加・3 月下旬～4 月上旬に両神山で遭難事故あり小鹿野、吉田、両神の山岳会で救助に出る。夜は公民館で対策会議をしては翌日出動した、山頂は雪が 30cm 位あった。数日後遺体発見、茂田井さんの車で小鹿野、吉田山岳会各 2 名で小鹿野警察に収容した。（大雨の中） S35 年 6 月：山岳会結成公民館にて（現下吉田駐在所）約 40 名加入、購入して貰ったテントを担いで各方面に登山をする。城峯山には毎年テントを張り警備、案内をした。

記 録

S35/ 5 : 吉田山岳会規約を作成、当時会
41 名、年会費は 200 円
・・以降記録紛失
S40/ 4/30 : 埼玉国体山岳部門実行委員会（秩
父市）井上会長・副会長宮本参加
S40/ 5/ 2 : 城峯山々開き・警備
S40/ 6/11～16 : 夏山相談所担当員派遣・東京（白
木屋）宮本 1 日参加
S40/ 7/ 4 : 奥秩父山開き 代表 5 名参加
S40/ 9/17 : 岐阜国体（企画委員・宮本功）視察、
前日夜台風の中自家用で出発、朝
上宝村着く、山岳部門の開会式に
立会う。翌日西穂高口まで行く。
S40/10/8～10 : 県体登山大会/十文字峠方面
S40/10/17 : 両神山/登山
S40/12/12 : 埼玉国体山岳部門専門委員会
S41/ 3/ 4 : 秩父岳連代表者国体合同会議
S41/ 3 : 城峯将門の隠れ岩に鎖を取付け
S41/ 4/13 : 吉田町体育協会結成式山岳会・野
球部加盟 4 名参加
S41/ 6/18 : 東京八重洲口「夏のレジャー展」埼玉
デスク（宮本）係として参加
S41/ 6 : 第 1 回町民ハイキング三平峠、尾瀬沼

S41/ 9 : 埼玉県体登山大会・熊倉多数参加
S42/ 4/23 : 埼玉国体山岳部門準備委員総会
秩父市役所
S42/ 6/18 : 東京駅八重洲口「夏のレジャー展」相
談員派遣要請有り宮本派遣
S42/ 8/23～27 : 模擬国体登山大会開催（奥秩父）
B 隊副長・宮本功以下 6 名参加
S42/10/22～27 : 第 22 回埼玉国体山岳部門競技大
会開催・B 隊副長以下 6 名参加
S43/ 2/17～18 : 第 1 回町民スキー 草津天狗山
S43/ 5/10 : 役員・会長/井上信太郎、副会長・
事務/宮本功、会計/小菅一市、監
事/阪上稱太郎、遭難対策委員を
選出、宮本功、中里林太郎、山口
馨、坂本幸英、小林高
S43/ 6/23 : 城峯山野外炊事用飯盒掛け設置
S43/ 7/21 : 第 2 回町民登山/妙義山
S43/ 8/11 : プラスチック指導標設置/（城峯山）
S43/10/20 : 第 3 回秋季登山/三国峠
S44/ 2/ 1～2 : 第 2 回町民スキー/天狗山
S44/ 4/27 : 導標を取付/城峰山
S44/ 7/19～20 : 第 4 回町民ハイキング/尾瀬が原
S45/ 1/31～2/1 : 第 3 回町民スキー/天狗山
S45/ 2/28～3/1 : 秩父岳連のスキー講習会
S45/ 4/ 5 : 白砂公園の手入れ及び下狩
S45/ 7/11～12 : 第 5 回町民登山/谷川岳
S45/10/18 : 第 6 回会員登山/二子山
S46/ 2/ 6～7 : 第 4 回町民スキー/菅平
S46/ 7/31～8/1 : 第 7 回町民登山/富士山
S47/ 2/ 5 : 第 5 回町民スキー/菅平
S47/ 8/ 3～4 : 第 8 回会員登山/三ッ峠
S48/ 2/ 3～4 : 第 6 回町民スキー/菅平
S48/ 4/30 : 導標設置及び整備/城峰山
S49/ 2/ 2～3 : 第 7 回町民スキー/菅平
S49/ 6/15～16 : 第 9 回町民ハイキング
S50/ 2/ 8～9 : 第 8 回町民スキー/菅平スキー場
S50/ 8/ 3 : 第 10 回会員登山/金峰山
S50/ 9 : 県体山岳・城峯山で行なう光楽苑
宿泊前夜祭翌、日阿熊～日野沢
より登る、神社横の山小屋にて
昼食、石間へ下る
S51/ 1/30～31 : 第 9 回町民スキー/鶏頂山
S52/ 2/19～20 : 第 10 回町民スキー/菅平
S52/ 8/ 7 : 第 11 回会員登山
S53/ 2/ 5～6 : 第 11 回町民スキー/菅平
S53/ 8/ 6 : 第 12 回会員登山/ハケ岳
S54/ 3/ 8～10 : 第 12 回町民スキー/中里
S54/ 3 : 白砂公園整備 つつじの手入れ
S54/ 8/ 4～5 : 第 13 回町民登山/富士山
S55/ 2/ 1～3 : 第 13 回町民スキー/中里

S55/ 8/10	:第 14 回会員登山/十文字峠	H17/10/22	:第 39 回町民ハク/上高地
S56/ 2/ 1	:第 14 回町民ｽｷｰ/尾瀬片品	H18/ 6/ 3	:第 9 回交流登山/佐渡ﾄﾝﾈﾝ山
S56/ 8/ 8~9	:第 15 回会員登山/御嶽山	6/ 4	: 同 上/大野亀山
S57/ 2/ 7	:第 15 回町民ｽｷｰ/草津天狗山	H18/ 7/30	:第 40 回市民登山/八方尾根
S57/ 8/ 7~8	:第 16 回会員登山/乗鞍岳	H18/10/22	:第 41 回市民登山/大菩薩峠
S58/ 2/ 6	:第 16 回町民ｽｷｰ/尾瀬片品	H19/ 3/ 5	:新潟婦人部案内両神節分草見学
S58/ 8/ 6	:第 17 回会員登山/木曾駒ヶ岳	H19/ 5/19	:第 10 回交流登山/伊豆ヶ岳
S59/ 2/ 4~5	:第 17 回町民ｽｷｰ/尾瀬片品	5/20	: 同 上/破風山
S59/10/ 5~6	:秩父宮妃殿下御来秩(秩岳連主催)龍勢見学~三峰宿泊・吉田区山岳会案内警備	H19/ 7/29	:第 42 回市民登山/ 金時山
S59/10/21	:第 18 回会員登山/十文字峠	H19/ 8/28	:第 43 回市民登山/榎池高原
S60/ 2/ 3	:第 18 回町民ｽｷｰ/岩鞍	H20/ 4/19	:第 11 回交流登山/八石山
S60/ 8/ 4	:第 19 回町民登山 日光男体山	4/20	: 同 上/雪国植物園, 県立歴史博物館
S61/ 2/ 2	:第 19 回町民ｽｷｰ/岩鞍	H20/ 7/27	:第 44 回市民登山/草津白根
S61/ 8/ 3	:第 20 回町民登山/赤城山	H20/10/25	:越後吉田山岳会 50 周年
S62/ 2/ 1~2	:第 20 回町民ｽｷｰ/岩原	10/26	:合同山行/八海山
S62/ 8/ 3	:第 21 回町民登山/筑波山	H20/11/ 2	:第 45 回市民登山/美ヶ原
H 2/ 8/ 9	:第 22 回会員登山/御巢鷹山	H21/ 5/16	:第 12 回交流登山/ 観音山
H 4/10/25	:第 23 回会員登山/二子山	5/17	: 同 上/ ミュースﾊﾟｰｸ~23 番音楽寺他
H 7/ 7/29	:第 24 回町民登山/富士山	H21/ 7/25	:松明登山祭/弥彦山
H 8/ 6/22~23	:第 25 回町民登山/尾瀬沼	7/26	:寺泊り~県立歴史博物館他
H 9/ 8/ 3	:第 26 回町民登山/尾瀬ヶ原	H21/10/25	:第 45 回市民登山/谷川天神平
H10/ 7/26	:第 27 回町民登山車山/八島湿原	H22/ 5/15	:第 13 回交流登山/新潟 坂戸山
H11/ 5/22~23	:第 1 回交流登山/両神山	5/16	: 同 上/樽山・当間山
H11/ 8/ 1	:第 28 回町民登山/渋峠~横手山	H22/10/12	:城峰山調査
H11/10/23	:第 2 回交流登山/光明山、	H22/10/17	:第 47 回市民登山/志賀高原
10/24	: 同 上/弥彦山	H23/ 8/ 6	:第 14 回交流登山/大霧山
H12/ 5/20	:第 3 回交流登山/城峰山	8/ 7	: 同 上/秩父札所廻り
H12/ 7/30	:第 29 回町民登山/安達太良山	(14 回続いた新潟吉田山岳会との交流登山を最後とする)	
H12/10/29	:第 29 回会員登山/ﾋﾟﾗｸﾞｽﾞ・横岳	H23/9/11	:第 48 回市民登山/戸隠古道他
H13/ 6/ 9	:第 4 回交流登山/米山、角田山	記録提出 井上信太郎氏	
H13/ 8/ 5	:第 30 回町民登山/那須茶臼岳	※H24 年 9 月 現在 以降の記録は未見。(広報)	
H13/10/20	:第 32 回会員登山/日光戦場ヶ原	H24 年 7 月の理事会案内の中に『吉田山岳会』の退会の文言があり添付された記録資料をつぶさに読ませて戴きました。S35 年(1960)5 月に発足し、今年 H24 年(2014)で解散まで実に 50 数年にわたる長い歴史を刻みました。	
H14/ 6/ 1	:第 5 回交流登山/武甲山	ちなみに県北西部では以下の記録(※)が県岳連 50 周年記念誌に記載されてます。	
6/ 2	: 同 上 /霧藻ヶ峰	※『小鹿野山岳会』創立 S 7 年(1932 年)	
H14/ 7/27	:第 33 回町民登山/三ツ峠	※『恵流峯会』 創立 S24 年(1949 年)	
H14/10/19	:第 34 回会員登山/乗鞍岳	※『両神山岳会』 創立 S27 年(1952 年)	
H15/ 6/14	:第 6 回交流登山/浅草岳	※『吉田山岳会』 創立 S35 年(1960 年)	
6/15	: 同 上/権現堂山	大変貴重な事業記録をお寄せ戴きました。後世に残すべく敢えてこの山行記録を上梓しました。長い間の活動とご功績に深く感謝いたします。	
H15/ 7/27	:第 35 回町民登山 草津元白根	文責(広報委/岩井田)	
H16/ 5/15	:第 7 回交流登山 西沢溪谷		
5/16	: 同 上/破風山		
H16/ 8/ 1	:第 36 回町民登山/筑波山		
H16/ 9/18	:第 37 回会員登山/榛名山		
H16/10/24~25	:第 57 回埼玉国体/役員参加		
H16/10/26	:案内/白髭山		
H17/ 5/ 5	:第 8 回交流登山/袴腰山		
5/ 6	: 同 上/国上山		
H17/ 7/31	:第 38 回市民登山/白馬尻大雪溪		

《カレンダーの販売について》

埼玉県山岳連盟理事長 天野 賢一

例年無料にて配布されておりました「埼玉県山岳連盟」のカレンダーですが、本年度より一部¥1,000（予価）にて販売することとなりました。（これまでのカレンダーはすべて田中名誉会長のご好意と個人負担によって作成・配布されていたものです）岳連の自立と厳しい財政事情からの脱却のため、どうか皆様のご協力をお願い申し上げます。

またカレンダーの販売については極力直接手渡しでの納品、集金を考えております。今後、理事会及び岳連関係の各種行事等の際には、カレンダーを準備させていただく予定でおりますので、どうかご協力ください。なおその他の販売方法等につきましては、申込方法等の詳細とともに追って御連絡させていただきます。各会理事への御連絡、または岳連ホームページのお知らせにご注意いただきますようお願い致します。 [〈http://saitama-mf.com/〉](http://saitama-mf.com/)

飯能・『阿寺の岩場』安全祈願祭



関係者が参加し安全祈願祭を開催

9 月 1 日（土）新たに開拓された『阿寺の岩場』の安全祈願祭が現地岩場前で厳かに執り行われました。

地元で精力的に岩場の開拓を行っている大野文雄さん、岩場のある山林の地主さん、駐在さんを始め関係者 30 名ほどの参加があり、地元の宮司さんによる祝詞、玉串奉天、お祓い等が行われました。

日本フリークライミング協会/北山真競技委員長、県岳連/天野理事長を始めとして山岳関係団体からも多数参加がありました。終了後、北山氏をはじめ有志により壁のクリーニングや樹木の片づけなどを行い、途中から大雨となったため中止し、大野さん宅に一旦集合し今後の岩場の運営方法やルートセットなどについて関係者で打合せを行いました。今後は壁の整備終了次第、一般公開する方向で調整を行うと思われます。

（記・広報委/岩井田）

【専門委員会・計画】24 年 10 月～25 年 1 月】

① 事務局

10/9 : 常任理事会・北本
11/13 : 理事会・北本
12/11 : 常任理事会・北本
1/26 : 新春懇談会・（未定）

② 指導委員会

10/21 : 登攀技術講習会・指導員研修会/飯能
10/24-25&12/8-9: SC 山岳指導員養成講習会/山口
1/19-20 : 積雪期講習会・研修会/那須

③ 競技委員会

11/25 : 第 14 回関東地区スポーツクライミング競技会
10/27-28 : リート・ワールドカップ 印西大会/千葉
11/10 : 県岳連クライミング講習会/加須
12/9 : 第 25 回コバトクライミングカップ/加須
12/22-23 : 第 3 回全国高校生選抜クライミング選手権大会/加須

④ 選手強化委員会

9/30-10/2 : 第 67 回さふ清流国体・選手派遣
10/27-28 : リート・ワールドカップ 印西大会/千葉
11/10 : 県岳連クライミング講習会/加須
12/9 : 第 25 回コバトクライミングカップ/加須
12/22-23 : （競技委員会と同じく）

⑤ 遭難対策委員会

10/21 : 登攀技術講習会・指導員研修会/飯能
12/2 : レスキュー研究会/（未定）
12/8-9 : 冬山遭難防止研修・講習会/伊奈県活
1/19-20 : 積雪期講習会・研修会/那須

⑥ 自然保護委員会

11/2-4 : 自然観察指導員講習会
12/1-4 : 関東ブロック自然保護委員会役員研修会
12/8-9 : 自然観察会/雲取山

⑦ 海外登山委員会

10/27-28 : 埼玉クライマーズミーティング・松木沢セッション
12/1 : 『エベレスト・ストックホルム峰登頂報告会』
12/未定 : （JMA）海外登山女性懇談会

⑧ ジュニア委員会

10/30-31 : 高体連西部地区新人大会クライミング
/柴崎ロック、ベースキャンプ
12/22-23 : （競技委員会と同じく）

広報委員会

10/中 : 第 3 回・編集委員会
13/1/末 : 広報誌『44 号』発行

⑨ 企画委員会

9 月理事会で承認された新規加盟のご紹介

- ・アルパインクラブ・山遊人（サユウジン）
 - ・埼玉県飯能市川寺 /代表者・小川元章氏
 - ・62 番目の加盟となりました。（単会加盟）
- 宜しく申し上げます。 県岳連事務局

《長野県山岳協会》新役員のお知らせ

下記の新役員就任のご案内が平成 24 年 4 月にありましたのでお知らせ致します。 敬称略（事務局）

記

会 長 : 宮本 義彦 (グループ・ト・モレス)
副会長 : 森山 議雄 (アトウオール)
副会長 : 古畠 俊彦 (グループ・ト・モレス)
副会長 : 西田 均 (大町山の会)
副会長 : 西澤 晃 (山幸グループ)
副会長 : 田中 幸雄 (伊那山の会)
副会長 : 杉田 浩康 (松本岳友会ライフアクト・マウント)
理事長 : 大西 浩 (信濃高校教職員山岳会)
副理事長 : 中島 俊弥 (長野県高体連)
事務局長 : 河竹 康之 (クライミング・メイトクラブ)
同次長 : 佐野 隆司 (伊那山の会)

〒399-0701 塩尻市広丘吉田 3359 サハス広丘 507

河竹康之気付

《群馬県山岳連盟》新役員のお知らせ

下記の新役員就任のご案内が平成 24 年 5 月にありましたのでお知らせ致します。 敬称略（事務局）

記

会 長 : 八木原 昭明 (新任)
副会長 : 角田 二三男 (重任)
副会長 : 小泉 俊夫 (新任)
副会長 : 吉田 直人 (新任)
顧問 : 中曾根 弘文
顧問 : 羽野 順一 (新任)
監 事 : 水野 金太郎 (重任)
監 事 : 藤沼 隆男 (重任)
理事長 : 佐藤 光由 (重任)
副理事長 : 角田 守 (新任・指導委員長)
副理事長 : 高橋 守男 (新任)
常任理事 : 長谷川 勇 (重任・会計)
常任理事 : 女屋 等志 (重任・総務委員長)
常任理事 : 岡安 茂能 (重任・編集委員長)
常任理事 : 星野 俊充 (新任・指導副委員長)
常任理事 : 小暮 文彦 (重任・遭難対策委員長)
常任理事 : 赤松 久宇 (重任・競技委員長)
常任理事 : 堀越 利通 (重任・競技副委員長)
常任理事 : 剣持 典之 (重任・海外登山委員長)
常任理事 : 斎藤 長作 (重任・自然保護委員長)
常任理事 : 見城 正造 (重任・事業委員長)
常任理事 : 阿部 源 (重任・個人会員委員長)
事務局長 : 女屋 等志 (重任)

事務局 〒371-0005 前橋市堀之下町 494-2

女屋等志方

《神奈川県山岳連盟》新役員のお知らせ

下記の新役員就任のご案内が平成 24 年 6 月にありましたのでお知らせ致します。 敬称略（事務局）

記

会 長 : 大曾根 弘 (重任)
副会長 : 岡本 安夫 (重任)
副会長 : 相良 忠麿 (重任)
副会長 : 石川 誠 (重任)
副会長 : 杉本 憲昭 (重任)
副会長 : 水島 彰治 (重任)
理事長 : 菊池 稔 (重任)
副理事長 : 石塚 孝彦 (重任・ホームページ委員長)
副理事長 : 松隈 豊 (重任・自然保護委員長)
副理事長 : 太田 拓 (重任)
副理事長 : 伊藤 靖雄 (新任)
常任理事 : 清野 明 (新任・指導委員長)
常任理事 : 下越田 功 (重任・遭難対策
兼会報委員長)

常任理事 : 山下 眞一 (新任・競技委員長)
常任理事 : 森 茂 (新任・トレイル委員長)
常任理事 : 谷口 浩平 (新任・ジュニア委員長)
常任理事 : 石井 清 (重任・海外委員長)
常任理事 : 武井 和 (重任・企画委員長)
常任理事 : 山田 邦昭 (重任・事業委員長)
常任理事 : 青木 英一 (重任・会計)
事務局長 : 松隈 豊 (新任)

事務局 〒222-0003 横浜市港北区大曾根 1-2-2
菊池稔気付

訃 報 壁稜山岳会 会長宮田征治氏

暦のうえでは白露も過ぎましたが、連日暑い日が続いております。日頃からの当山岳会に対するご指導ご鞭撻に感謝申し上げます。

さて、当山岳会の会長宮田征治氏につきましては数年来の闘病生活の末彼の復帰への意欲にもかかわらず本年 8 月 3 日永眠されました。

ここに、故人にかわり生前のご厚情に感謝申しあげるとともに、謹んでご報告申し上げます。

平成 24 年 9 月 11 日

熊谷市山岳連盟 壁稜山岳会 代表八ッ田政男

謹んでお悔やみ申し上げます 埼玉県山岳連盟

【編集後書】

『ぎふ清流国体』に応援団として参加、初日から台風の余波でスケジュール変更により右往左往しつつ、大会は進行、ハードな変更スケジュールにも関わらず選手、監督は疲労の色も見せずリード、ボルダに大健闘！

観客席からファインダー越しに見る一手の瞬間は、まさに手に汗を握る素晴らしいクライミングでした。予定遅れて無事大会は終了、そして広報誌の表紙を飾る入賞のナップ写真を無事にとることが出来ました。選手・監督の皆さん感動を有難うございました。

広報 @miwaida